

町の花 ● フ ジ

下郷の遅い春、桜が終わってしばらくすると町を覆いはじめる新緑の中に、フジの花が咲き乱れ、辺りによい香りをふりまきます。初夏を告げるうす紫のこの花は、町のいたるところに自生して、下郷のシンボルとなっています。ことに塔のへつりは、別名藤見公園とも呼ばれるほどで、シーズン中は見事な景観をつくりだします。(昭和五十四年十月十六日制定)



町の木 ● シラカバ

高原型の気候と澄んだ空気の下郷は、シラカバが多数自生してロマンチックな旅情を誘います。シラカバは日当たりのよい高地に自生する落葉高木で、その真っ白な木肌と清楚なたたずまいは、町を訪れる人々の一服の清涼剤となっています。(昭和五十四年十月十六日制定)



町の鳥 ● ウグイス

長く厳しい冬が終わる春を迎えるころ、町のそこかしこに響き渡るウグイスの声は、本当に春の訪れを感じさせてくれます。その愛らし姿と希望に満ちた明るいイメーヂから、町の鳥として人々に愛されています。(昭和五十四年十月十六日制定)

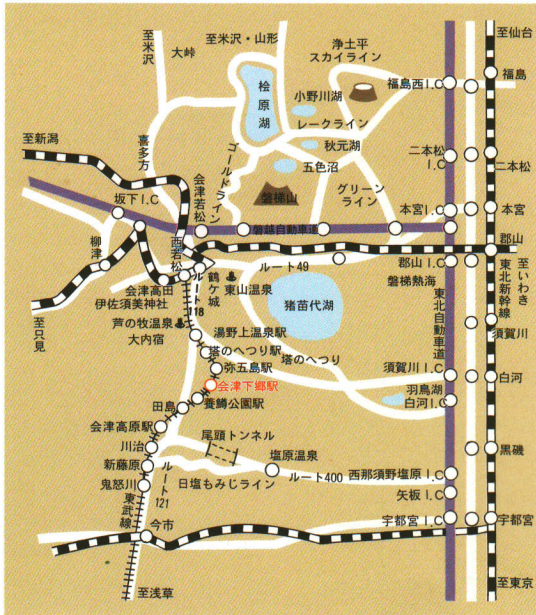


町章

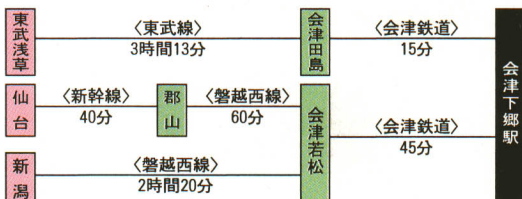


この町章は、下郷町の「しも」の字を図案化したもので、町民の融和と団結を表し、町勢の着実な前進を象徴したものです。

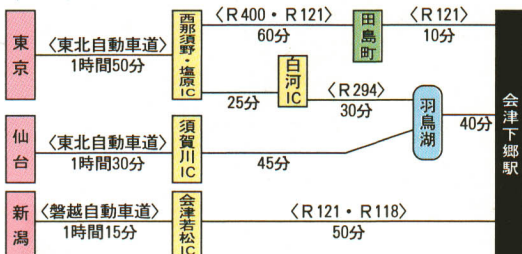
交通のご案内 ACCESS (HOW TO GET THERE)



◆電車(最短時間)



◆マイカー



下郷町民憲章 (昭和55年3月10日)

わたくしたちは 大川の溪谷美と
いで湯の里にはぐくまれ
那須連峰の雄大な自然をもつ
心豊かな下郷町民です
わたくしたちは 先人のすぐれた
文化遺産を受け継ぎ
より誇り高い町づくりをめざします
わたくしたちは 深い郷土愛に根ざし
日常生活のなかでこれを実践するため
この町民憲章を定めます

一、自然を愛し 美しい町をつりましよう
一、心と体を鍛え 健康でたくましい町をつりましよう
一、楽しく働き 豊かな町をつりましよう
一、隣人を愛し 思いやりのある明るい町をつりましよう
一、生涯をおして喜び 文化の町をつりましよう

下郷町民の歌

飛躍の明日へ

作詞 小林金次郎
作曲 星 和男

(一)山あり 二岐 小野岳は
緑に映えて 幸を呼ぶ
光る大川 湯の煙
希望と意気に 燃える町
藤波ゆれる 下郷は
鶯の声 さわやかに
飛躍の明日を 目指しつつ
ああ 今我ら 伸びて行く

(二)里あり 江川 旭田と
榎原の町 手を結び
歴史新たに 奮い立ち
理想と平和 創る町
白樺続く 下郷は
黄金の稲穂 林檎の実
飛躍の明日を 歌いにつ
ああ 今我ら 栄え行く

(昭和55年4月29日)